

平成27年度第2回（第11期第7回）小平市廃棄物減量等推進審議会
会 議 次 第

平成27年7月30日（木）
午後2時00分～
健康センター 第2～4会議室

1 開会

2 事務局報告

3 議事

(1) 一般廃棄物処理基本計画の数値目標（平成26年度実績）について（報告）

(2) 小平市リサイクルセンターの整備（更新）に向けて

4 その他

5 閉会

配付資料

資料1 小平市一般廃棄物処理基本計画の数値目標等（平成26年度実績）

資料2 小平市リサイクルセンター整備基本計画（第1回ワークショップ 説明資料）

参考資料 事務局からの報告事項（メモ）

- 会長 ただいまから、第7回の審議会を開催いたします。
本日は、青野委員、小日向委員からご欠席の連絡をいただいています。
また、審議会の委員に交代がありましたので、お知らせいたします。
事業者代表として委員となられていた吉田委員が、都合により委員を続けることが困難となりましたので、高杉憲由氏が新たに委員になります。
ここで、高杉委員から一言ごあいさつをいただければと思います。
- 高杉委員 小平市清掃事業協同組合の高杉です。清掃事業協同組合からの参加ですので、さまざまな意見をお話させていただきたいと思っています。よろしく申し上げます。
- 会長 続きまして、リサイクルセンターの基本計画を担当しています八千代エンジニアリングの國安氏がオブザーバーとして参加していますので、ごあいさつをいただきます。
- 國安氏 八千代エンジニアリングの國安と申します。新しいリサイクルセンターの計画をお手伝いすることとなりました。よろしくお願いたします。
- 会長 続きまして、会議の開催に当たりまして、岡村環境部長からごあいさつをいただきます。
- 環境部長 本日は、強い雨と雷の中、お集まりいただけるのか心配していましたが、皆様にお越しいただき、誠にありがとうございます。
前回の審議会におきましては、一般廃棄物処理基本計画で掲げている重点施策の実現に向けた方向性や留意点について、委員の皆様の率直なご意見をいただき、大変参考になったところです。今後、東大和市と武蔵村山市と共同で実施していく3市共同資源化事業の取り組みに、皆様の意見等も十分に参考にさせていただいて、検討させていただきたいと考えています。本日の審議会におきましては、平成26年度の取組におきます数値目標がまとまりましたので、その報告とともに、リサイクルセンターのワークショップが始まりましたので、第1回目の内容について報告をさせていただきます。お気づきの点などございましたら、率直なご意見をいただきたいと思います。お待ちしております。
- 会長 続いて、事務局から、配付資料の確認をお願いします。
- 事務局 *** 配付資料の確認 ***
- 会長 それでは、次第の「2 事務局報告」に移ります。
資源循環課長からお願いします。
- 事務局 *** 報告 ***
- 会長 ただいま報告のありました件について、ご質問などはございますか。
- 委員 リサイクルきゃらぼんの資料の中に未利用食品8kgとありますが、これはどんな物ですか。回収後はどうなりますか。

- 事務局 今回、回収した物は賞味期限が1ヶ月以上ある瓶詰め以外の食品で、レトルト食品、缶詰、カップラーメンやお米を回収しました。翌日に賞味期限の確認等を行い、箱詰めのうえNPO団体に送りました。
- 会長 続いて、次第の「3 議事」に移ります。
はじめに、(1)「一般廃棄物処理基本計画の数値目標（平成26年度実績）について」事務局から報告をお願いします。
- 事務局 説明させていただきます。資料1をご覧ください。
内容としては、概ね前回の会議におきまして、速報値としてお示しさせていただきましたものから、修正等はございませんが、平成26年度が現在の一般廃棄物処理基本計画の計画対象年度の1年目となりますことから、こちらのA4版の資料を新たに作成した形となります。
ごみや資源の量に関するデータにつきましては、前回報告のとおりでございますが、今回は、温室効果ガス排出量をお示ししております。データとして把握しはじめてから年数が経っておりませんので、経年での変化や動向を見るのは難しいところではありますが、今後、続けて算出をしていくことで、変化や動向をモニターすることができるものと考えております。
また、A4版裏面、計画時見直しモニター指標をご覧くださいますと資源物混入率と市民満足度を記載しております。
こちらに関連しましては、今年度の6月に組成分析調査を実施いたしました。
口頭での報告となりますが、その結果といたしましては、資源物混入率は燃えるごみで11.1%、燃えないごみで21.6%という結果でございました。前回の調査では燃えるごみが12.8%、燃えないごみが26.0%でしたので、それぞれ改善が見られるという結果でございました。ご参考までお知らせいたします。
以上でございます。
- 会長 報告は終わりましたが、ご質問などあればお出してください。
- 委員 組成分析の生ごみの状況はどうでしたか。
- 事務局 生ごみにつきましては55%程でした。一般的な数字よりは大きい数字になっていますが、前回は草木類が10%だったところが、今回は3.4%で少なかったなので、その分、生ごみなどの比率が上がったものと捉えています。
- 委員 草木類というのは、具体的にはどのようなものでしょうか？
- 事務局 普通の枝や葉っぱ、雑草の類いです。枝はあまり入っていません。
- 会長 草木類の量が減ったのですか。
- 事務局 減りました。草木類は草刈りや庭掃除をするとごみに出て来るものなので、今回は少なかったということです。

- 委員 生ごみは増えていますね。
- 事務局 草木類の比率が下がったので、結果として他の比率が膨らんでいくという形です。
- 会長 そうすると、草木類は生ごみに含んでいないという事ですか。
- 事務局 含んでいません。有機類ではありますが、生ごみと草木類は分けて計上しています。
- 会長 組成分析というのは、なかなか全体のバランスをとるのが難しいです。収集場所によって、生ごみが多い所があればそうでない所もあり、たまたま草木の多い所もあると思います。ただ、そんなに分析結果に変わりはありません。
- 事務局 サンプル調査という面もあります。
- 会長 対象はごみですから、なかなかサンプルといっても難しいです。
- 委員 サンプル量としてはどのくらいですか。
- 事務局 前회가、可燃ごみ・不燃ごみを合わせて、約1.8トンでしたが、今回は1.2トンという事で、三分の二の量でした。ただし、データとしてそれほど少ない量ではありません。
- 会長 季節による変化もあります。
- 事務局 季節は揃えてあります。ただ、草木類になると、調査の前の休日が晴れていたかどうかなどで、影響が出てきてしまうと考えています。
- 会長 次に、(2)「小平市リサイクルセンターの整備・更新に向けて」を議題とします。
- 事務局 まず、事前に配付させていただきました、資料2小平市リサイクルセンター整備基本計画について、パワーポイントを使ってご説明いたします。
このパワーポイントは、7月18日の土曜日に開催されました小平市リサイクルセンター整備基本計画の策定についての第1回ワークショップにて、説明用として使用したものです。
- 整備スケジュール（予定）につきましては、3市共同資源物処理施設が、平成31年度の稼働を予定していることや、「(仮称)小平市リサイクルセンター整備基本計画」策定の基本方針の中では、現在のリサイクルセンターの西側の敷地等の活用も含めて、現行施設を並行稼働させながら新処理施設の整備を最短の工程で行う方向で検討する、と明記しており、新リサイクルセンターの稼働時期も、3市共同資源物処理施設の稼働時期に合わせて稼働することが望ましいことから、平成31年度稼働を予定としております。
- また、現在、清掃事務所で選別処理を行っている、乾電池、蛍光管、紙パック、白色トレイ及びスプレー缶などの処理につきましても、新リサイクルセンターの稼

働に合わせて、平成31年度の稼働を想定しております。

リプレこだいらですが、この表では、平成32年度稼働を予定しておりますが、これは、本来ならばリプレこだいらも資源化施設同様、平成31年度に合わせて稼働することが、利用者の皆様や市民の皆様の立場からも望ましいと考えておりますが、新リサイクルセンター建設時は、同時に現在のリサイクルセンターも稼働していること、工事車両や搬入車両の台数が一時的に増えること、危険性の問題や管理棟やプラザ棟などの設置場所について、詳細設計がまとまっていないことなどから、現在のところ、平成32年度を予定しております。

新リサイクルセンターのキーワードにつきましては、サブタイトルに、親しみやすく、市民のみなさんから信頼される、安心で安全な新リサイクルセンターを目指します！とありますが、さらに分かりやすく、6つのキーワードを掲げました。このキーワードは、ワークショップ参加の皆様にも、考え方やその方向性を明確にするためにご意見等を出しやすいようにキーワードとして並べてみました。

以上で、パワーポイントの説明を終わります。

続きまして、ワークショップの概要を説明申し上げます。

今の、パワーポイントを説明した後に、2グループに分かれて、

① 敷地の利用について

② 建築デザインについての二点について、

議論をしていただき、ご意見をいただきました。

本日は委員の皆様から、①敷地の利用について、②建築デザインについて中心に、ご意見やご提案をいただきたいと思いますが、それ以外でも構いませんので、どうぞよろしくお願いいたします。

時系列的には前後しますが、第1回ワークショップを開催するに当たり、ワークショップ参加者の皆様からのご提案で、6月30日に「狛江市ビン・缶リサイクルセンター」に視察に行っていました。その時の資料もご用意させていただきましたので、簡単にご説明させていただきます。

*** 視察資料説明 ***

会長 説明は終わりましたが、ご意見・ご質問などあればお出してください。

委員 私達、ごみ減量推進実行委員会では、市と協力して廃食油や小型家電や陶磁器などの回収事業に取り組んでいます。新しい施設が出来るならば、市民がいつでも持って来られる、常設の雨に当たらない施設を敷地内に作ってもらえそうです、すごく嬉しいです。

会長 センターが出来れば、そういう機能も必要だと思います。ただし、量的な問題もある訳ですので、どこまで保管できるのかも考えないといけません。受入を誰がするのか、ボランティアがやるのか、業者にやってもらうのか、今後の課題です。

委員 清掃事業協同組合からは、業務の安全が確保できるようにしてほしいという願

いがあります。車が入り出す際の動線の問題など、収集運搬業者としては、安全が確保された環境を作ってほしいです。

また、視察先の作業場所を見ますと、結構狭いなという印象があります。もう一つは、ベルトコンベアーには緊急停止装置が必要ですが、ちょっと見受けられませんでした。いざという時の安全装置を目立つ形で配置することが必要です。

会長 資源選別をしています東多摩再資源化事業協同組合から何かありますか。

委員 当然配慮してもらえとは思いますが、この時期は暑いので、エアコンを使うなど作業しやすい環境を作ってもらいたいと思います。

委員 今のリサイクルセンターを作る時にも、プラザ機能や学習機能などを盛り込んでほしいという意見が出ていましたが、その時は予算面でうまくいきませんでした。

会長 今の施設は数年の暫定施設という事で設計されましたが、予算的な関係で暫定から抜け出せなくなってしまいました。健康管理面では、シャワールームが狭くて、休憩する場所も狭いので、ちゃんとした休憩室がなければいけません。

委員 小学校長の立場で考えますと、子供達の学習の場としてリサイクル施設を使わせていただく事が出来ると有り難いと思います。狛江市では見学者と作業員の動線が重ならないように2階で説明しているようで、それが安全性につながります。施設によってはガラスが入っていて、音の問題や臭いの問題にも対応している所もあります。そうすると、安心して見学することが出来ます。

それから、子供達の学習の効果について、何かあっと驚くようなものを見せてもらえるとすごく印象に残ります。そのようなものがあれば子供達の反応も違ってくると思います。

委員 新施設ではシンプルで具体的でわかりやすい展示をしてほしいです。子供達にこうすると自然や経済的にもやさしくできるとわかるような展示をしてほしいです。見学者のためにもなります。図書などの資料も揃えていただきたいです。

会長 大人も体験できるような施設も検討しなければいけません。当然、ビデオも作らなくてはならないと思います。あとは、学校に配るパンフレットを準備しなくてはなりません。

他に、何かありますか。

委員 配付資料によると、清掃事務所が第2リサイクルセンターみたいな位置付けになるのですか。

事務局 小平・村山・大和衛生組合に不燃ごみ粗大ごみを扱う処理施設がありますが、平成32年を目途に清掃事務所の敷地を利用して施設を更新します。清掃事務所では選別作業している白色トレイ、紙パック、蛍光灯、乾電池、スプレー缶を、リサイクルセンターに持って来るといった作業をします。

委員 清掃事務所での白色トレイ等の保管は、やめるのですね。

- 事務局 そういうことです。
- 会長 ビンとカンで合わせて9トン／日となっていますが、設計の計算上はどうなっていますか。
- 事務局 今は、ビン6トン／日とカン3トン／日という計算をして、合わせて9トン／日です。ペットボトルは少しずつ増えていますが、ビンやカンについては、減っていくだろうと予測しています。
- 委員 陶磁器のリサイクル回収について、私は中島町に住んでいますので、新リサイクルセンターで陶磁器等の回収をする事になりますと、かえって遠くなります。新リサイクルセンターでこの事業が始まる場合は、ホームページや市報を使って積極的にPRすべきです。
- 事務局 今回のワークショップにつきましては、ホームページとか市報でも案内しています。予定では市民懇談会を3回以上開催し、パブリックコメントなどで広く意見を頂戴できるように考えています。また、第1回ワークショップの内容をまとめた簡易版をニュースレターという名称でホームページに掲載していこうと考えています。近隣の住民に対しても、ご案内をしたいと思っています。
- 会長 今回のところワークショップなので、ワークショップの内容しか出せませんが、だんだん基本計画が出来てきますと、それを公表しないといけません。
他に何かありますか。
- 委員 前回審議会の資料「小平リサイクルセンター整備基本計画策定の基本方針」の計画の内容の項目については、どこで検討しているのですか。
- 國安氏 実は今、並行して進めていて、規模の件や土地の状況だとかを進めています。ワークショップも2回ほどやりますと、今度は整備基本計画を公表する段階になりますので、それまでにはひととおり整備基本計画の内容をまとめたものを作る予定です。
- 委員 原案は、だいたい御社の方で作られるのですか。
- 國安氏 私というよりは、小平市の方で作るのをお手伝いしているような状況です。
- 委員 ワークショップでは、敷地利用とデザインについて話し合われていますが、リサイクルセンターの中身に関する基本事項については話し合われていません。この場で検討するのではないのでしょうか。
視察に行きました狛江市ビン・缶リサイクルセンターでは、ビンは4種類に分ける事になっています。緑・白・茶・その他の色です。ガラス工場ではさらに硬質と軟質に分けます。市の中間処理とメーカーの処理が、ダブっちゃう訳です。そういった事を整理する方策というのは取れないのでしょうか。
少子高齢化で人口減が進むので、新しい施設を建設するにあたって、減量をどのように取り組むかをこの場で検討する事を提案したいです。中身の検討なしにデザ

インについてばかり検討されているのが疑問です。

会長 リサイクルセンターの基本計画を作って建設に向けて動くのと、ごみ減量施策を
 どういう風に推し進めていくかは、並行してやらなければいけません。
 他に何か意見はありますか。

委員 リサイクルセンター西側広場は5千㎡で、リサイクルセンターは何㎡ですか。

事務局 約6千㎡です。全部で1万1千㎡です。

委員 環境学習機能が必要なのか、私は疑問です。確かに、地域貢献していくのは当然
 ですが、環境学習機能の施設を作ってどれだけの効果があるのでしょうか。

会長 環境学習機能につきましては、迷惑施設にならないために、付加施設をつくるこ
 とで子供達に喜んでもらえる事が大事です。施設の建設に影響する訳ですから、必
 要最低限な点です。

委員 必要最低限の中にガラス工房などが入るのですか。

会長 場所の制約があり、地元からの要望全てに応じることは出来ないでしょうが、事
 務局がコンサルタントと一緒に具体的に設計していくことになります。

委員 桜の木を移転するという話が出ているそうですね。ソメイヨシノであれば、寿命
 は50～60年だそうで、掘り起こして移植して果たして根付くかどうか。寿命を
 考えると、かえって可哀想だと思います。

会長 移植が出来ないとなると、例えば桜の木を新たに植えるという事になります。い
 ずれにしても施設の何%かは緑化しなければいけない決まりになっています。

委員 基本はリサイクルセンターが大事で、付加施設の事を充実させるために、リサイ
 クルのことを疎かにしてはいけないと思います。

会長 基本はそのとおりです。

委員 ワークショップの資料を見ますと、イメージアップしていこうというのが二つ
 あって、一つは極力、施設に公園を作るという考え方で、もう片方はリサイクルプ
 ラザ、環境教育施設を充実させようという考え方のように思います。

 利用するのは周りに住んでいる方だと思われるので、公園が必要だという意見が
 強いなら、公園の面積をある程度確保する必要があると思います。ごみに関わっ
 ている我々としては、環境教育施設があると良いなと思う訳で、その辺が微妙だな
 と思います。ビオトープという蚊の発生原因になってはいけないと思います。

委員 何にリサイクルされるのかという点がポイントだと思います。リサイクルします
 というだけで終わっていて、何に変わるのかが分かりません。最終的に学校で使う定
 規に変わったり、ボールペンに変わったりするのを、リサイクルセンターで説明し

てはどうでしょうか。

事務局 資源物がこういった物に変わるということは、見学された皆様には伝えていますが、コストの関係もありますが、処理から製品になるまでを順番に見て触って感じるといような事ができれば、学習効果が高いと思います。リサイクルセンターが環境学習を発信する場所になると良いなと考えます。

会長 それでは、次回の日程について、事務局から説明をお願いします。

事務局 次回、第8回の審議会ですが、10月2日(金)でお願いしたいと思います。

会長 それでは、次回の開催は10月2日(金)に決めさせていただきます。

委員 以前のスケジュールでは、9月中に整備計画の素案を作る予定となっていたと思いますが、そのスケジュールはどうなっていますか。

事務局 現在のワークショップ等との関係等を含めて、目安としては、先程説明させていただいたとおり10月を目途に素案を作成させていただき、パブリックコメント等、市民懇談会等を開催させていただきたいと思います。

会長 その他に何かありますか。

委員 ワークショップに参加することは可能ですか。傍聴など出来ますか。

事務局 ワークショップ開催の公表はしていなくて、メンバーの方にお知らせして集まっていますところですので、どうしてもということであれば、事前に事務局に連絡をお願いします。

会長 13名のメンバーはその地域に密着している人達で、そこに余計な人が入って行っているいろいろな圧力をかけるような形になったら悪いので、傍聴はしないようにしているのだと思います。

今後、素案が出来てパブリックコメントで公表が出来れば、市民の参加できる機会がありますので、ご理解いただきたいと思います。

それでは、散会といたします。